

蒸気機関車アイアンホース号にかかる
「ガバメントクラウドファンディング」の取り組みに対する
「鉄道史学会」の「住田奨励賞」受賞について

平成30年度に行った、小樽市総合博物館における蒸気機関車アイアンホース号の修繕にかかるクラウドファンディングの取り組みが、「鉄道史学会」の「住田（すみた）奨励賞」を受賞しました。

賞の名称 鉄道史学会 住田奨励賞特別賞（第10回）
受賞日 令和元年9月21日
授賞式 鉄道史学会第37回大会（釧路公立大学）
受賞者 小樽市総合博物館
選定対象 鉄道施設の長年にわたる保存・運営活動
とりわけ同館所蔵「アイアンホース号」の修復

【選定理由】

総合博物館は多くの鉄道車両を展示し、鉄道の歴史を紹介していますが、中でも蒸気機関車アイアンホース号の動態展示は子供たちに人気を集めています。

そのアイアンホース号が平成29年度に故障したことから、その修繕費総額約1,200万円の財源確保のため、平成30年度に600万円を目標額として、ガバメント・クラウド・ファンディング「北の鉄道発祥の地小樽に再び蒸気機関車の汽笛を鳴らそう！」を行ったところ、支援の輪は日本全国の多くの方々に広まり、最終的には目標額を大きく上回る総額7,972,748円、364件の寄付を集め、修繕費に充てることができました。

返礼品のメニューに、歴史的鉄道施設に実際に触れる体験を組み込むなど、この活動を通じ、鉄道保存の重要性と魅力を全国に知らしめる工夫に取り組み、このことが鉄道資源を保存・運営する日本全国の博物館にとっても先駆的な事例となったことや、アイアンホース号のファンである子供たちの期待に答えたことが、高く評価されたものです。

※「鉄道史学会」

鉄道史研究の発展のため活動している学術団体。

公益財団法人交通研究協会（実業家住田正一氏を記念する財団）が顕彰する日本の交通史に関する学術的な活動を「住田奨励賞」として、「鉄道史学会」が選考し、表彰するもの。論文の部、図書部の部、特別賞の部（博物館展示および資料保存等）の3部門を設定し、毎年開催している研究大会で、賞を授与しており、今回が10回目の表彰である。

会長 宮下弘美（釧路公立大学教授）

事務局 日本経済評論社内（東京都千代田区神田駿河台1-7-7）